

## ドイツパビリオン

## ～循環経済「サーキュラーエコノミー」を体感～



地域交流  
万博特集

ドイツパビリオン広報部長 Jana SOLL (ヤナ・ゾル)\*

Deutscher Pavillon  
- Experience the Circular Economy -

Key Words : Circulation, Harmony, Surprise and Inspiration

## はじめに

2025年大阪・関西万博において、ドイツは「Wa! Germany (わ! ドイツ)」という名称でパビリオンを出展しています。この「わ!」には、「環(わ)」=循環、「和(わ)」=調和、そして驚きや感動を表す「わ!」という三つの意味が込められています。テーマは「循環経済(サーキュラーエコノミー)」。この分野は、持続可能性の観点からドイツが特に力を入れている取り組みであり、本パビリオンでは、それを直感的に理解し、体験できる工夫が凝らされています。

## ドイツ経済・気候変動対策省の取り組み

このパビリオンのクライアントであり責任主体は、「BMWE(ドイツ連邦経済・エネルギー省)」です。同省は、循環型経済をドイツの経済戦略の柱と位置づけており、本パビリオンを通じてそのビジョンを国際社会に示すことを目指しています。展示では、ドイツ国内で進行中の循環型経済に関する政策、技術革新、産業界との連携事例なども紹介され、他国へのインスピレーションの提供を意識しています。また未来都市のビジョンを模型や人工知能の力を借りてわかりやすく示しています。

## サークルが導く未来社会への道

パビリオンの構造は、7つの円筒状の木造ユニットから成り立っています。これらの建築は相互に接合され、来場者を包み込むような形で設計されています。展示エリアとレストランエリアという2つのアンサンブルで構成され、自然素材を生かした持続可能な設計が特徴です。建物自体が「循環経済」を象徴するサークル(円)を基調としたデザインとなっており、建築、景観、展示が一体化することで、ここでしか味わえない体験を提供します。



7つのサークル状の木造建築から構成されたデザイン

この建築デザインを手がけたのは、ドイツ・ベルリンを拠点とする建築事務所 LAVA Architekten。プロジェクトには、クリエイティブエージェンシー facts and fiction(ケルン)、施工を担当する GL events(リヨン/大阪)も参画しており、国際的なコラボレーションにより実現されています。



\* Jana SOLL

German Pavilion Expo 2025 Osaka,  
Kansai Wa! Germany わ!ドイツ  
2025大阪・関西万博ドイツパビリオン  
広報部長 Head of Communications  
Office +49170 6144 434  
Mobile +49 176 1256 3142  
E-mail : media@expo2025germany.de  
HP : www.expo2025germany.de  
ハッシュタグ : #expo2025germany  
Koelnmesse GmbH Messeplatz 1 50679  
Cologne, Germany

## 建築に見る持続可能性の哲学



循環型を意識した館内のデザイン

パビリオンの主な目的は、循環型経済の概念と実践例を来場者に伝えることです。廃棄物を出さずに資源を繰り返し利用する「ゼロ・ウェイスト」社会の実現に向け、ドイツが行っている取り組みやイノベーションを紹介します。展示は一方的な情報提供にとどまらず、インタラクティブで没入感のある体験を通じて、来場者が主体的に学べる構成になっています。

### インタラクティブ・ミラー

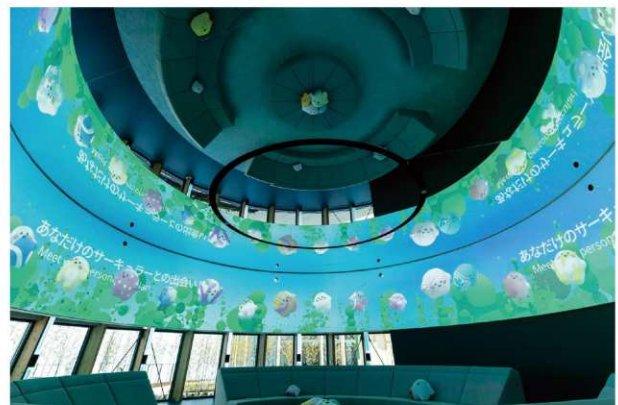
「インタラクティブ・ミラー」では、持続可能な社会の未来を体験できます。さらに、AI を用いた展



Interactive Mirror  
© German Expo Pavilion / Hotaka Matsumara



Dream Machine  
© German Expo Pavilion / Hotaka Matsumara



Circular Me  
© German Expo Pavilion / Hotaka Matsumara

示では、来場者が自らの理想とする「未来都市」のビジョンをデザインし、それがスクリーン上にビジュアル化される回転する大きなシアターやその仕掛けもこれにより、持続可能な社会の構想に積極的に参加できる設計となっています。

### 教育とエンターテインメントの融合

ドイツの展示のコンセプトの柱となるのは以下の三つの要素です。KAWAII (カワイイ)：漢字では「可愛い」と書きますが、日本のポップカルチャーの広がりとともに、海外でも KAWAII として知られるようになりました。EDUTAINMENT (エデュテインメント)：循環型社会の構築という複雑なテーマを効果的に伝えるためには、楽しみながら学べる展示にすることが大切です。IMMERSION (没入感)：ドイツパビリオンでは、どの展示ルームでも没入型体験が待ち受けています。そこに広がる展示テーマの世界に思わず引き込まれてしまうはずで

ドイツのパビリオンは、丸い形のマスコット「サーキュラー」が案内をしてくれます。日本の「カワイイ文化」にヒントを得て考案されました。このマスコットはドイツパビリオンのいたるところに登場し、おしゃべり型のサーキュラーが、循環経済における人々の暮らしを日本語、英語、ドイツ語で説明してくれます。来場者は単に情報を受け取るのではなく、自ら体験することで、持続可能性や循環経済の概念をより深く理解できます。

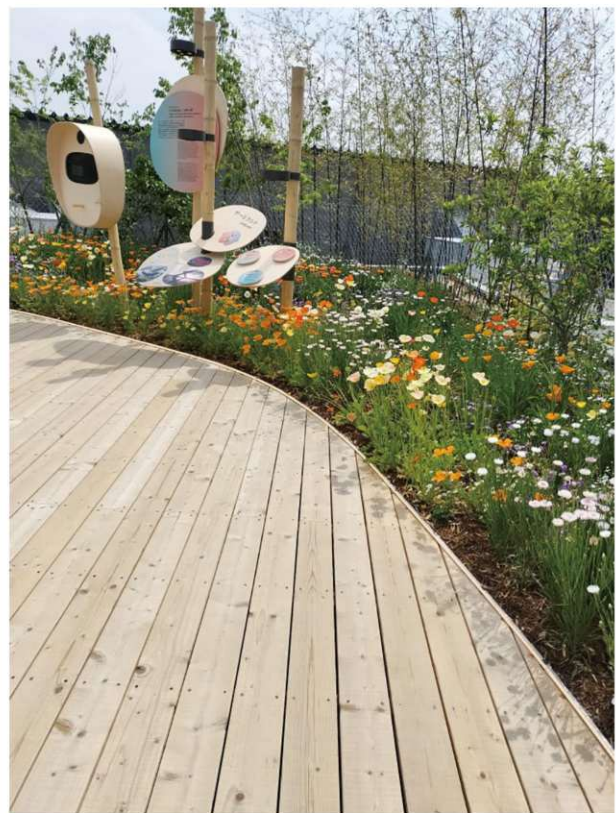
来館時に渡されるマスコットガイドは、来場者が使用言語や興味のあるテーマを選択すると、それに



遊び心で循環型経済を紹介  
マスコットキャラクター サーキュラー君



色とりどりの庭



お花畑

じてガイドが各展示ブースで説明を行ってくれます。これにより、子どもから高齢者まで幅広い世代が自分のペースで展示を楽しめるよう配慮されています。

さらに、パビリオンの屋上には自然を意識した花畑が広がり、ドイツ各地の地域性を学べる展示が行われています。来場者の五感に訴える展示手法は、ドイツの「人にやさしいデザイン」へのこだわりを感じさせます。

## 社会的責任とアクセシビリティ

ドイツ館は、循環型社会を構築するうえで市民の意識変革が重要であると考えています。展示を通じて、個人ができる具体的な行動やライフスタイルの選択肢を提示することで、来場者一人ひとりが持続可能な未来づくりに貢献できるよう促しています。

また、誰もが快適に訪れられるパビリオンであることも重視されており、高齢者や赤ちゃん連れの家族など、移動に配慮が必要な来場者を優先して入場させるなど、包摂的な運営が徹底されています。このような姿勢は、社会的課題の解決に科学技術と自然の融合でアプローチするドイツの哲学を体現しています。



高齢者優先レーン

## 万博の意義とドイツの役割

2025年4月13日から10月13日まで開催される大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、約160カ国・25の国際機関が参加する壮大な国際イベントです。会場の夢洲(ゆめしま)には、リング状に各国のパビリオンが

配置され、未来社会に向けたさまざまな提案が発信されます。

ドイツはこの万博を、循環型経済という地球規模の課題に国際的に取り組むための絶好の機会と捉えています。持続可能な社会の実現に向けた具体的なソリューションを提示し、知識とアイデアの交換を通じて、共通の未来を築くことが期待されています。

## おわりに

ドイツパビリオン「わ!ドイツ」は、来場者にとって驚きと学びの場であり、同時に持続可能な未来社会へのヒントが詰まった空間です。循環型経済を単なる理念にとどめず、建築、展示、体験のすべてを通じて実感できる場所として、大阪・関西万博の中でもひととき注目される存在となるでしょう。



わ!ドイツ